

「身体が不自由な親と旅行したいの」 そんな願いを手助けする「介護旅行」

身体が不自由な人も、トラベルヘルパーと一緒に、旅行を楽しむことが可能です。同行の家族の負担が減るので、本人も家族も心おきなく旅行を満喫できるのです。

写真／HIRAROCK 文／青木信子

国内旅行だけでなく、 海外旅行も楽しめる

篠塚恭一さんが率いる「あ・える倶楽部」は、身体が不自由な高齢者などに対して「介護旅行」を提供する会社です。

「たとえば、温泉に行きたいというご要望にトラベルヘルパーを派遣します。ナイアガラの滝を見たいなど、海外旅行にも対応できます。また、旅先で急病になった人や、遠くの病院へ転院する人の移動をサポートすることもあります」と篠塚さん。

トラベルヘルパーはヘルパー2級以上の資格者。移動や食事、トイレ、入浴などの介護を安心して任せることができます。ヘルパー派遣だけでなく、現地の受け入れ態勢を確認し、必要であれば宿に介護用のレンタルベッドを入れるなど、セッティングもしてくれます。



「旅は人を元気にする」と篠塚さん。食が進んだり、表情が一変することもある。

「身内に介護されていると、どうしても気がねやわがままが出てきますね。介護の部分をトラベルヘルパーに任せれば、ご本人もご家族も心おきなく旅を楽しめると思います」

日常的に親の介護をしている女性が、ときどき介護旅行を利

用してともにリフレッシュするという活用法もあるそうです。条件は、本人の意思があり、家族が旅行に同意している、主治医の許可があること。それが確認でき、現地の受け入れ態勢が整っていれば、世界中どこへでも行くことが可能です。

旅の原点は巡礼。 トラベルヘルパーと ルルドの泉へも

事務所には旅行の記念写真が多数貼られている。「『奇跡の水』を求めてフランス・ルルドの泉へ行った人も。いわゆる巡礼の旅ですが、巡礼はもともと年若い人などが苦勞を重ねながら行った旅の原点です」と篠塚さん。



旅で脳トレ! 認知症を予防して、 いくつになっても旅行を。

あ・える倶楽部では、元気な高齢者のための「介護予防の旅」も企画している。たとえば、水中ウォーキングやアンチエイジング食などを体験するツアーだ。そうした関連で、認知症予防に役立つ脳トレーニング本も出版している。



profile

篠塚恭一さん
(株式会社エス・ピー・アイ 代表取締役)

1991年旅行人材の専門会社(株)SPI設立。その後、ニーズに応じてトラベルヘルパー育成を開始し、高齢者・障害者向け旅行取扱い開始。2001年株式会社SPI(あ・える倶楽部)へ社名を変更。高齢化時代の旅「介護旅行」を実施。

SPI(あ・える倶楽部)
篠塚恭一さんへの相談・問合せは
<http://wellage.jp/>へ。

たとえばこんなツアーを予定中

- 6月6日(水) 出発
[8日間 バリアフリー オーストラリア(ケアンズ・エアーズロック・シドニー)]
- 7月9日(月) 出発
[7日間 バリアフリー モンゴル(ナードム祭り)]
- 8月29日(水) 出発
[8日間 バリアフリー 西オーストラリア(パースのワイルドフラワーと月への階段)]

バリアフリーの パックツアーも おまかせ!

お客様からの依頼に応えるだけでなく、募集型企画旅行にも力を入れている。もちろんバリアフリー。国内では、「四国八十八カ所霊場巡拝の旅」も企画。